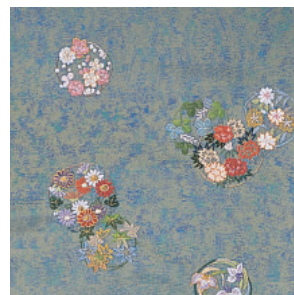
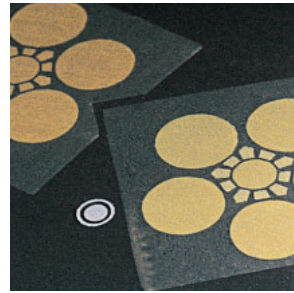
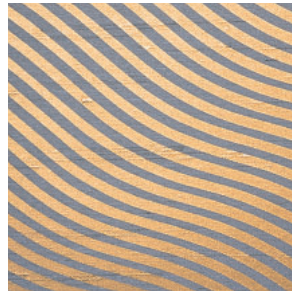
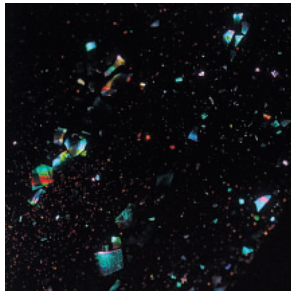


Kanazawa Traditional Arts & Crafts

ス・テ・キ

2002
Vol.1



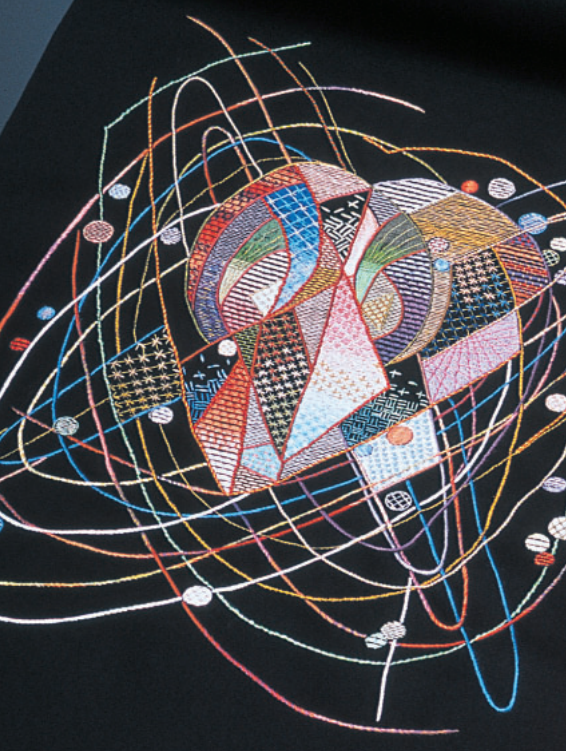
金沢の伝統的工芸品

加賀友禅／金沢九谷／金沢仏壇／金沢箔／金沢漆器／加賀繡



ス・テ・キ

象嵌・和紙・和傘



新しい和の風

金沢から
提案する
和と洋の融合

伝統工芸は古いものではありません。はるか昔から現代へと継承されてきたのは、普遍の輝きをもつ本物だから、そして時代の空気を敏感に感じとりながら常に斬新なものを創り続けてきたからです。そんな金沢の伝統工芸が生み出す新しい和のカタチ、洋とのコラボレーションを楽しんでみませんか。

金沢 × ダイニング

Kanazawa Traditional Arts & Crafts with Exquisite Dining

器でキメる華やぎの食卓

和洋中にエスニックと各国料理が並ぶ現代の食卓では、

どんな料理にでも合う器が安心。でもときには、

あつ、いいなと思った器から食卓を思い描いてみる。

料理は？クロスは？お花は？ほら、ワクワクしてきませんか。

上絵付けの美しい九谷焼の器から発想した、

華やかなテーブルコーディネート提案です。

各自の席には古九谷写しの銘々皿と金欄手の高盃を揃えました。銘々皿は九谷五彩（紫・緑・黄・紺青・赤）が鮮やかで絵画のような趣。ゲストにはまず、その色絵の美しさを味わってもらいましょう。春夏秋冬の特徴ある図柄なら、季節ごとに使い分けて季節感を演出。和の器ならではのおもてなしです。

銘々皿も高盃も金彩がポイント。そこで、サイドプレートやお箸も総金箔でまとめました。金箔はふつくと温かみのある金色です。この輝きをうけとめてくれるのは、ランチョンマット代わりの袱紗。ちりめんの柔らかい風合いにとごりのない赤がしっとり金色を包み、上品な華やかさをプラスしてくれます。

お料理はカジュアルなフレンチで。全

面が多様な色絵の器に料理を盛るときは、色絵の一角とお料理の色をそろえるのが

コツ。赤がポイントのお皿にはローストビーフを載せて。

お肉の新鮮な淡褐色が映えて美味しそう。グリーンのハーブも忘れずに。

黄色と緑のラインが印象的な葡萄柄の皿にはこんがり

黄金色に焼き上がったパイ包み。葡萄柄に合わせてベ

リーソースを添えます。

器の柄とちよつと遊んでみるもの楽しい。草木が描

かれた角皿に野菜スティックを松葉のようにあしらえ

ば、ゲストからの賛辞は確実。



歴代画4号角皿揃 (128×128mm) 5枚 ¥7,200 長寿堂



①銀引き箔額
¥100,000 箔座

②赤紋鳥文三段重／赤地健作
1組 ¥90,000 九谷焼 諸江屋

③金欄手高台盃／錦生作
5客 ¥60,000 九谷焼 諸江屋

④加賀繡ふくさ
1枚 ¥9,000 ぬいの今井

⑤角小皿草花絵変／一憲作
5枚組 ¥28,000 九谷焼 諸江屋

⑥樺木の葉銘々皿
5枚 ¥45,000 金銀箔工芸さくだ

⑦全金箔箸
1膳 ¥3,200 金銀箔工芸さくだ

⑧赤絵細書龍文中皿揃／清山作
5枚 ¥320,000 九谷焼 諸江屋



大皿蜚蜋 聡文作
¥39,000 九谷焼 諸江屋

蒔絵瓦
¥30,000 金沢仏壇商工業協同組合

加賀繡ストール
(118×16cm) ¥12,000 めいの今井

葡萄文大皿
¥70,000 長寿堂

金沢 × ファッション

Kanazawa Traditional Arts & Crafts with Fascinating Fashion

きれいでしょ、
装いに漂う和のエッセンス
黒いストラップドレスの肩にサラリとかった
おそろいのストールには、薄紅色の桜の刺繍。
横顔に見えるイヤリングは華やかな蒔絵…。
洋のなかになにげなく取り入れた和の伝統美が
女性たちをより魅力的に見せてくれます。

はモダンなジュエリーへと変貌。金沢の
伝統美は現代ファッションの上に新たな
美しさを開花させています。

女性を美しく彩ってきた金沢の伝統工
芸もこの流れに無縁ではありません。時
間と手間をかけ、多彩な色に染め上げた
優雅な加賀友禅、女性の手仕事から生ま
れる繊細な加賀繡は華やかなパーティード
レスやバッグ、ストールなどにその輝き
を映しています。さらに加賀毛針の技術
からは可憐なコサージュが誕生し、
武士の時代に鎧を飾つ
た加賀象嵌

和を取り入れた洋服が本格的に注目さ
れたのは、70年代、日本人デザイナーが
パリのモード界に参入したときのこと。
欧米にはない色使いや着物から生まれた
形の美しさは驚きをもって迎えられまし
た。それから30年。現在、日本のデザイ
ナーも外国のデザイナーも和洋融合と意
識せずに、和のテイストをさりげなく取
り込んでいます。日本人が服の文化を消
化し、世界が和を消化し始めたんですね。
そんなモード界の流れを受けて、今、
ストリートから社交界まで、和を感じさ
せるファッションがあふれています。伝
統の吉祥紋様がデザインされたTシャツ、
縮緬で仕立てたパーティードレス、畳の緑
をあしらったバッグ、桜や梅など和花を
アレンジしたアクセサリーなどなど。



カクテルバッグ 波

金箔を波型に裁断し、独自の技
術で箔押し。軽いので立食パー
ティに最適です。ビーズストラ
ップが可愛いアクセント。バッ
グのカラーは他にグレーとグリ
ーンの3種。¥25,000 箔一



友禅イブニングドレス「変容」
参考商品 金沢美術工芸大学

駱駝紋象嵌リング
¥285,000 金沢・クラフト広坂



駱駝紋象嵌首飾&ブローチ

坂井貂聖作。青いトルコ石の首飾り。ペンダントトップは銀と銅を混ぜた地に駱駝の象嵌とラピスラズリ。ゴージャスですが、ジーンズやエスニックスタイルにも使えそう。駱駝紋象嵌首飾¥400,000、ブローチ¥350,000
どちらも金沢・クラフト広坂



コサージュ

藩政時代から鮎釣りの針として作られていた加賀毛針。その技術を生かして華やかなアクセサリが生まれました。羽毛を使った軽いコサージュは薄物のブラウスでも使えます。¥7,500〜 金沢・クラフト広坂



加賀織ショール&加賀織バッグ

かっちりといねいに仕立てた総刺繍のバッグはパーティーにぴったり。バッグもサテンのショールも和装・洋装を問いません。
加賀織ショール1枚(164×41cm) ¥50,000、加賀織バッグ¥140,000
どちらもぬいの今井

金沢 × リビング

Kanazawa Traditional Arts & Crafts with Stylish Livingroom

今、室内インテリアを考えると
和のテイストが欲しくなる

和洋融合の生活空間を彩るのは、
和のやわらぎを持ちながら、時代の空気を取り込んだ
伝統工芸の新しいモノたち。
洋のスタイリッシュなリビングの中で
新鮮な和の魅力を放ちます。

和洋融合が最も活発に進んでいるのは
お家のインテリア、住空間だと思います。
欧風の住まい方を取り入れても、やっぱり
靴を脱がなければ家に入れない私たち
日本人にとって、この流れは至極当然の
成り行き。昨今の新築や改築ではリビン
グの一角に畳スペースを作るお家が増え
ているとか。テーブル＆チェアの生活は
合理的だけど、どこかに和の和みが欲し
い。そんな気分があふ
れている。

だから、私たちは現
代生活に合う魅力ある
和のモノを探し始めま
した。例えば漆器。漆
器はジャパンと訳され
ていますが、もはや異



緑の仏壇
家具調の上置仏壇。戸裏に施された鳳凰の蒔絵が
モダン。(W410×H700×D310mm) ¥400,000
金沢仏壇商工業協同組合



深緑釉裏金彩香炉
竹田恒夫作。釉裏金彩は素地に金箔を貼り、透明
度の高い色釉をかけて焼き上げたもの。金箔と色
釉の重なりから生まれる色調や貫入による紋様が
美しい。(径110mm) ¥150,000 野村右園堂

国趣味ではありません。あの黒や朱の艶
やかさは、世界を魅了するインターナシ
ヨナルな美しさ。漆黒のお盆にはバカラ
のグラスもウエッジウッドのティーカッ
プもすんなりおさまってしまうことに気
がついたのです。

一方、作り手たちは洋のテイストを取
り入れた新しいモノを創造し始めていま
す。障子だった和紙は柔らかな風合いの

あるブラインドに、呉服を彩る加賀繡は
テーブルセンターやクッションに。日本
古来のお仏壇だって例外ではありません。
リビングに置かれても全く違和感のない
デザインが生み出されています。住空間
の和洋融合はこれからもつ
と高まるはず。より洗練さ
れたいいモノをセレクトし
たいですね。



段違い屏風春秋

木製パネルに金箔をデザインした屏風。表はウ
ォールナットの木肌に桜のデザイン、裏は箔布
を張り紅葉を描写。リバーシブルなので和洋ど
ちらのインテリアとしても使えます。
(W420×H1600×D150mm) ¥250,000 箔一

錫木製赤絵金彩コーヒーカップ&
錫木製金彩鶴乃図ティーカップ

錫木商舗がかつてヨーロッパに輸出した
ものを持ち帰った。里帰り九谷。オリエ
タルな上絵が逆に新鮮。赤絵金彩コーヒ
ーカップ1客¥95,000、金彩鶴乃図ティ
ーカップ1客¥88,000 どちらも錫木商舗





箔彩古布額 (右上・左下)

1点 ¥5,200 箔座

箔彩縫額 (左上・右下)

1点 ¥10,000 箔座

天狗銚子

¥100,000 能作

加賀繡テーブルセンター

右上のクッションとセットで1組 ¥80,000
金沢・クラフト広坂

加賀繡クッション

手付真盆

¥35,000 能作



箔彩染掛軸

¥40,000 箔座

和紙タペストリー

参考商品 金銀箔工芸さくだ

接合雲文象嵌花器

¥450,000 金沢・クラフト広坂

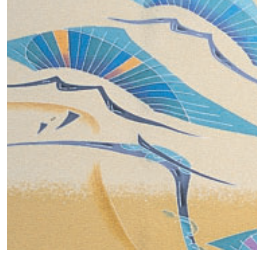
入り子六段重

(下の段260×260mm)

1組 ¥300,000 能作

美松盆 (12ヶ月盆/如月)

¥25,000 能作



心ときめく和装の華

加賀友禪

加賀友禪は足利時代にあった加賀独特の梅染（無地染）に端を発し、17世紀中頃、色が混ざり合うのを防ぐ防染糊の発明によって現在の多彩な色使いの基礎が作られました。

図案作成から始まる10以上の製作工程はすべて専門の熟練職人たちによる手仕事。

いく人もの手を経て生まれる気品に満ちた美しさ、それが加賀友禪です。

確かな画力と
妥協のない色彩感覚が
加賀友禪の美しさを生む

加賀友禪の大きな特徴は自然風物を写し取った絵柄と、多色使いでありながら落ち着きのある上品な色調です。そこには一枚の葉っぱでも3色を使ってほかすなど、写実的で細かな彩色技法が用いられています。この製作の要となる図案作成と彩色を行うのが加賀友禪作家。毎田健治氏もそのひとりです。「自然の写生をひたすら積み重ね、その美しさを着物

にいか表現するのが加賀友禪の根本ですね」。こうして生み出された図案は、生地と線とで下描きされ、その線に沿って防染糊が引かれます。

この防染は糸目糊置きといわれ、専門の職人が担当。微小な筒口から糊を絞り出しながら、下絵の筆致どおりになぞります。糊の跡は白い線となつて残り、柄の一部となるので、作家の意図を汲んで施されるのです。なぞるのも作家が最も際立たせたいと手前に描いた柄から始めます。下描きの上にさらに糊で下描きしているわけで、糸目糊置きは単なる防染以上の意味を持っているのです。



この糊の細い線で囲まれた部分を彩色するので、色が「色はそれぞれ千紫万紅。イメージどおりの色を出すためには、色を混ぜて作って、試し塗りをして、また作っての繰り返し」とか。そして色が決まると何種もの筆や刷毛を使い分けながら一つ一つ色を挿していきます。創作を担うデザイナーであり、熟練した職人でもあるのが加賀友禪作家。さらに毎田氏は「加賀友禪の緻密な技法や伝統のデザインを着物以外にも生かしたい」と、企画ディレクタ

●毎田健治（まいだけんじ）／1940年石川県金沢市生まれ。64年金沢美術工芸大学日本画科を卒業し、父、毎田仁郎氏に師事。75年日本伝統工芸展に初入選し、以来、連続入選。95年通産大臣認定伝統工芸士。加賀友禪界牽引役の一人として活躍。





■友禅タペストリー
鉄線が描かれた壁掛けは、夏の爽やかな演出に。
(380×750mm) ¥34,000 加賀染振興協会



■加賀友禅染額
さらりと描かれています
が、白椿の形や葉っぱの巧
みなほかに、加賀友禅作
家の確かな画力が感じられ
ます。和室に凛とした風情
を添える一枚。
(額寸415×445mm)
¥75,000 加賀染振興協会



■染布
加賀友禅の人間国宝、故木村雨山のデザインを全面に
あしらってあります。素材は綿で、風呂敷や間仕切
り、壁掛けなど使い方は自在。
(850×850mm) ¥25,000 加賀染振興協会



■加賀友禅伝統産業会館（加賀染振興協会）
歴代の名工から現在活躍している作家の作品まで、多様な加賀友禅を展示していま
す。また、地下1階では華やかな友禅小物を販売。加賀友禅購入に際してのアドバ
イスなどもしてくれます。
金沢市小將町8-8 ☎076-224-5511 ☎ 9時～17時 ☎ 水曜（祝日は開館）
※1階展示室入館は300円 <http://www.kagayuzen.or.jp/main.html>

毎年、春秋の叙勲の時節が近くなると
かならず、加賀友禅の産元商社には全国
から色留袖の注文が舞い込みます。これ
は言うまでもなく、名誉ある式典、祝賀

パーティーでも式典でも
自信が持てる本物の一枚



毎田染画工芸

加賀友禅訪問着「愛染」
青や紫が巧みに使われ、約120色の多彩
な色が見事に調和。梅格子に菊や牡丹、桃
や桔梗など四季の花柄は季節を問わず着用
できます。

毎田健治氏作品紹介

1としての意欲も旺盛。インテリア分野
などにも積極的に取り組んでいます。



■加賀友禅小紋着尺
板場友禅といわれる型染め友禅。精巧な型を何枚もおこし、
多彩な色で染め上げます。華やかにカジュアルに着られます。
¥60,000 加賀染振興協会

の会に臨むご本人や奥様たちのお召し
物。加賀友禅ならどこへ着ていっても大
丈夫という、クオリティの高さの証にほ
かなりません。
生地は最高級の長浜縮緬。肩にはおっ
ただけですつと馴染んでくるその風合
い。染めの着物にこれ以上のものはあり
ません。また、手作業でいいねいに彩色
された部分はどちらが表か裏かわからぬ
ほどきれいな仕上がり。そして糸目糊が
引かれた白い線が美しい柄をよりくつき
りと立体的に見せてくれます。
最初の1枚は用途の広い訪問着を。40

代以降のミセスなら色留袖がいいです
ね。地色は実際にはおつてみて顔映りの
いいものを選びます。特にくすみのない
きれいで爽やかな中間色は女性を引き立
ててくれます。柄は四季の花や自然の風
景を描いた伝統的なものなら飽きが来
ず、長く着られます。
購入や下見は呉服店の展示会が一番。
受注生産なので店頭にはほとんどありま
せんし、あっても僅か。数多くの中から
選ぶなら展示会がおすすめです。また、
現在、270名近い加賀友禅作家がいて、
一口に加賀友禅といってもその個性はさ
まざま。数を見ることが作家の特徴もわ
かってきます。展示会を巡りながら、お
気に入り作家、お気に入りの1枚を見
つけてみませんか。

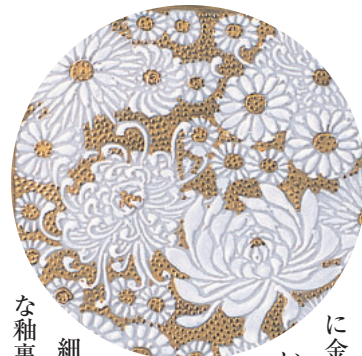


■加賀友禅卓布
松竹梅を大胆にデフォルメした遊びのあるテーブルセンタ
ー。ほかしが効いた優しい花模様は加賀友禅ならではの。
(350×700mm) 松竹梅 ¥40,000
花模様 ¥60,000 加賀染振興協会



五彩鮮やか花鳥風月の伝統美 金沢九谷

17世紀中期に興り、約半世紀で潰えた古九谷。それから約120年後、古九谷の再生を図り、現代の九谷焼の元となる窯が加賀を中心に次々と誕生します。その発端となった窯は、まず金沢で築かれました。以来、約200年。華麗な上絵付けの伝統を受け継ぎ、発展させてきたのが金沢九谷です。



時代を超えて輝きを放つ
繊細な職人手技の美しさ

伝統的な金沢九谷と称されるものは、

九谷五彩(紫・緑・黄・紺青・赤)

に金を加えた多彩な色使

いの精巧な上絵が特徴
です。小さな盃や湯
呑みの内側に百人一
首などを流麗な草書

体で描き込んでいく
細字描きや、煌びやか
な釉裏金彩(地に金箔を貼



●清水翠東(しみずすいとう)／1910年石川県金沢市生まれ。本名、利吉。九谷焼画付師伊藤泰山氏、薩摩焼画師黒田孝次郎氏に師事。さらに宮崎清氏に日本画を学ぶ。76年石川県伝統産業功労章受賞。81年通産大臣認定伝統工芸士。

り、透明度の高い
色釉をかけて焼き
上げる技法)を生
み出したのも金沢
九谷でした。

この豪華で繊細

かつ精緻な伝統技
術を忠実に受け継
いでいるのが清水
翠東氏です。氏は

13歳で九谷焼画付師の内弟子となつて以
来、絵付け一筋の画工。当時は年季が明
けると日本画の勉強をすることになつて
いたそうで、氏も優れた写生力に基づく
花鳥風月、山水、人物画が十八番です。
また、器の地を直径1ミリ以下の金粒で
等間隔に埋めていく正確無比の仕上げな
どは、精巧さを誇る金沢九谷画付師の極

清水翠東氏作品紹介

小茶器

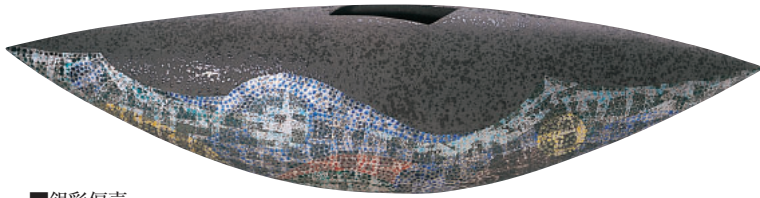
精緻な金唐草の紋様に、サギやカワセミ、
ヒワドリなどを繊細なタッチで描写。氏81
歳の時の作。湯呑みは径60mm、高さ45mm。清
水氏所有、湯冷まし欠品にて非売。



生活を華やかに彩る 個性豊かな金沢九谷

現代の金沢九谷は、絢爛な色絵を施した装飾的な作品から、普段使いの器までもバリエーション豊か。それぞれの持ち味を生かした使い方を考えるのも楽しみのひとつです。

例えば、伝統の豪華な色絵や精緻な金彩を現代のインテリアに取り入れるなら、装飾過多にならないように香炉などの小ぶりのアイテムがおすすめ。熟練の職人技で施された上絵はいとおしくなるような魅力があり、小さな香炉でも



■銀彩偏壺

戸出克彦作。土の味わいをそのままに銀彩を施した大きな花器。たっぷりと花を飾りましょう。千両や紫式部など実ものをあしらうと似合うそう。(W760mm) ¥480,000 野村右園堂

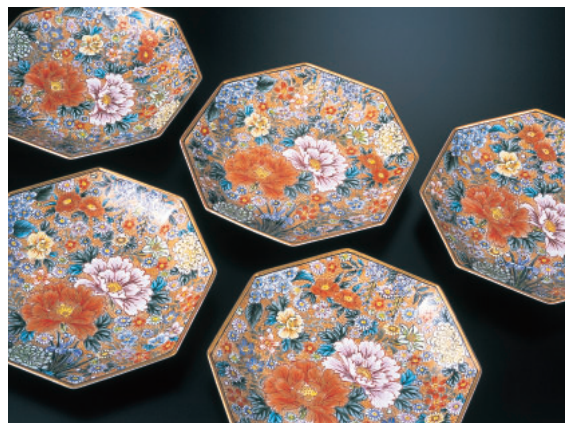


■金帯小茶器

戸出政志作。きれいな深いブルー、散らした花模様テーブルに華やぎを添えます。ていねいにいれた煎茶と美味しい和菓子でティータイムを。(湯呑み径63mm) 1揃い¥80,000 野村右園堂

■15号鮎傘立て

市川清麟作。生き生きと泳ぐ鮎が白地に映え、玄關先を明るくしてくれそう。存在感の大きなオブジェです。(H440mm) ¥75,000 鏡木商舗



■花詰銘々皿

羽利清胡作。華やかで豊かな金沢九谷の伝統を感じさせる皿。テーブルコーディネートインテの楽しさを広げてくれます。(径170mm) 5枚揃い¥250,000 鏡木商舗



■野村右園堂

1925年創業。金沢の代表的な名所、兼六園のそばにある九谷焼の店。普段使いの手頃な器から九谷焼代表作家の名品まで幅広く揃っています。若手作家を紹介するギャラリーも併設。
金沢市兼六町2-3 ☎076-231-5234 営 9時～18時
※ 無休 (冬期のみ木曜定休)

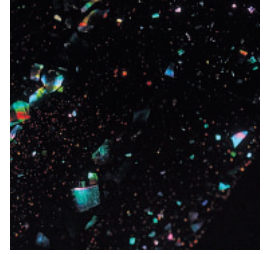


■九谷陶芸 北山堂

1階には生活の器、2階には作家ものを展示。金沢九谷をはじめ、上絵付けに品格のある伝統的な九谷焼を数多く揃える老舗です。
金沢市広坂1-2-33 ☎076-231-5288
営 9時30分～19時 ※ 水曜

の彩りとしてお役立ちの逸品です。
近年、上絵付けだけでなく成形を手がける作り手も多くなりました。コンテンツ

ポラリークラフトも金沢九谷の新しい個性。多様な表情を持つ焼き物として金沢九谷はその世界を広げています。



祈りの心を今に伝える

金沢仏壇

室町時代、蓮如上人の北陸巡回により

加賀一円は真宗王国と称されるほど浄土真宗が広まります。

さらに江戸時代初期の宗門改めによって檀家制度が確立、

仏壇は民衆により身近なものとなりました。

そして京都や江戸から名工を集めた加賀藩御細工所の流れをくむ職人達が

一般庶民の需要に応じて仏壇製作にあたるようになります。

金沢仏壇として現在に至っています。

七職の分業で作られる 伝統技術の集大成

昔ながらの金沢仏壇は金箔押しでの光り輝くような金仏壇で、製作は七職といわれる分業です。七職とは木地、宮殿、木地彫り、箔彫り、塗り、蒔絵、金具を指し、それぞれが長い歴史をもつ伝統技術。金沢仏壇とは、さまざまな職人技を結集し、ひとつにまとめあげた高度な伝統工芸品なのです。

中村博氏は、七職のひとつ、仏壇専門の蒔絵師。藩政期には漆器も仏壇も同じ



●中村博（なかむらひろし）／1932年石川県金沢市生まれ。16歳で金沢仏壇蒔絵師石橋松禄氏に入門。さらに同三島芳斉氏に師事。26歳で独立。80年通産大臣認定伝統工芸士。

蒔絵師が手がけていましたが、のちに専門化しました。源流は漆器の蒔絵と同様、京都の五十嵐道甫にあり、格調高い高蒔絵や研出蒔絵が基本です。蒔絵に使う金粉は約100種類。それを使い分け、蒔いた部分の漆の乾き具合を確かめながらの作業です。「漆は毎日、微妙に乾き具合が違うから、漆の調合には気を使う」



と中村さん。また、仏壇に施す蒔絵の図案は決まったものと思いがちですが、意外にもほとんど中村氏自身が考えています。「戸裏にはお釈迦様の生涯を描くのが伝統的。どんな宗派にも合うから。でも最近は花鳥風月や山水が多いね。以前、仏壇を注文された女性から亡くなったご主人がよく兼六園を散歩していたと聞いて、引き戸に兼六園の風物を描いたんだ。喜んでもらえたよ」。仏壇に描かれた兼六園は故人を偲ぶよすがとなり、その思い出は家族に受け継がれていく…まさに

仏壇職人冥利に尽きる仕事。「仏壇は拝まれるもの。拝みたくなくなるようなものではないといけないんだ」という中村氏の言葉に職人の心意気が現れています。

高い伝統技術を継承しながら新しいスタイルを提案

伝統の金沢仏壇は分業で作られた部分品を最後に組み立てます。組み立て方は釘を使わないホゾ組み。分解できるので修復やクリーニングが容易です。仏壇は世代を越えて受け継がれていくもの。堅牢であることはいうまでもありませんが、修理ができることは大きなポイントです。

また、住宅事情やライフスタイルの変化で70代や100代などの大きな仏壇は置けなくなっている家庭も増えていま



■30代上置金沢仏壇

前面は金粉留めにすぎ漆で、呂色仕上げ。戸裏は金箔押し。引戸に研出蒔絵で施された片輪車や地紙紋様が上品です。障子はオプションで取り付け可能。造りはホゾ組み、ステンレスビス使用で修理もしやすくなっています。(W440×H840×D420mm) ¥680,000 山田仏具店



■金沢壁掛仏壇

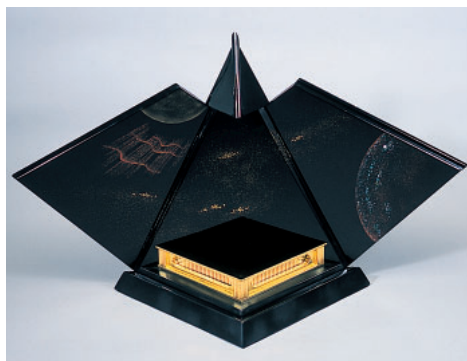
小さくても心の拠り処に。アパートやマンションなど現代の住宅事情に合わせたコンパクトな仏壇です。(W325×H422×D114mm) ¥250,000 金沢仏壇商工業協同組合



■米永仏壇

荘厳華麗な金沢仏壇を中心にさまざまなお仏壇を揃えています。塗りや加飾、組み立てまで、高い技術力をもった自社工場で一貫生産。修理やクリーニングにも、もちろん応じてくれます。

金沢市示野中町1-10 ☎076-221-1930 営 9時～18時 休 木曜



■宇宙ファンタジー

扉を開けると蒔絵や螺鈿で描かれた小宇宙が広がります。閉めれば漆黒で三角形のオブジェに。仏壇の未来型を提案。(W570×H600×D280mm) ¥300,000 金沢仏壇商工業協同組合



■山田仏具店

家庭の仏壇や仏具から寺院仏具や内装まで、すべてを手がける専門店。塗りの伝統工芸士でもあるご主人は、パソコンを駆使し、客の要望に応じて仏壇をデザイン。好評を得ています。

金沢市安江町13-32 ☎076-221-2306 営 9時～19時 休 火曜

す。そんな現状に合わせて、金沢仏壇では壁にかけられる薄型や箆笥の上に置くようなミニサイズの仏壇、厨子を取り外せるセパレート型の仏壇なども考案。加飾も荘厳な金箔押しだけでなく、艶やかな漆に上品な研出蒔絵だけを施したシ

ックなものも作られています。仏壇の意義は位牌を安置し、故人を偲び、感謝の気持ちを持つて祖先の霊に手を合わせることに。形にこだわることなく、拝むに値する品格と質の良さを備えた価値ある仏壇を選びたいですね。

■70代金沢仏壇
第16回全国伝統工芸品仏壇展において、伝統意匠部門・経済産業省製造産業局審査官の品。箔押しをせずに神代杉の風合いを活かした細工、淡い色合いの刺繍がきれいな障子、蒔絵はすべて精巧な研出蒔絵。細部の意匠にこだわった荘厳で風格のある造品です。W730×H1680×D660mm 参考商品。米永仏壇





極限の薄さが放つ金銀の煌き

金沢箔

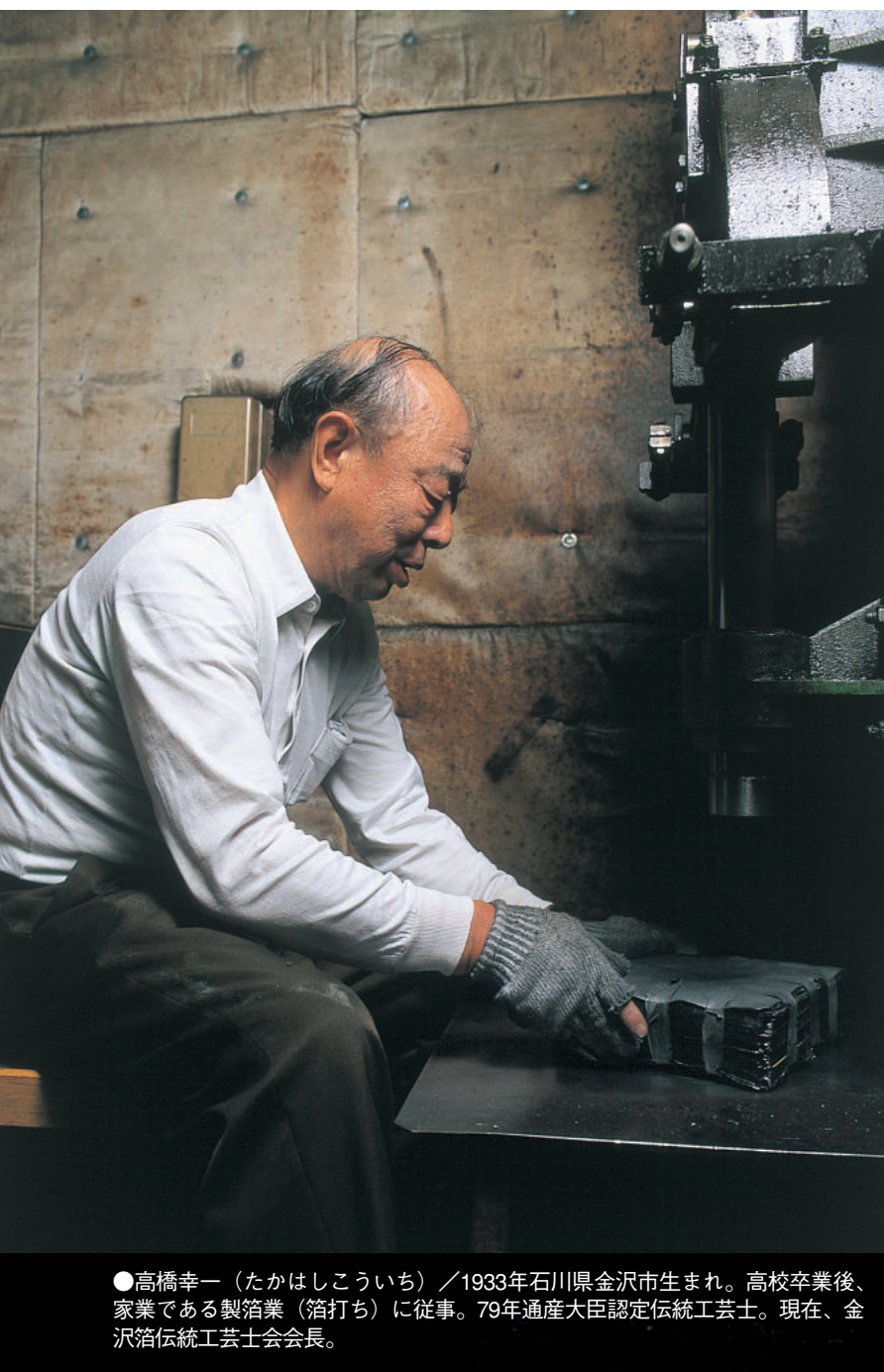
日本における金箔や銀箔、洋箔、プラチナ箔など金属箔のほぼすべてが金沢で生産された金沢箔であることをご存知ですか。

金箔生産は全国シェアの99%、その他の箔は100%を占めています。始まりは文禄2年(1593)、加賀藩祖前田利家が朝鮮役の陣中より国許へ金・銀箔の製造を命じたことから。

江戸幕府による箔製造の統制を受けながらも密かに箔打ちは続けられ、現代へと受け継がれてきたのです。

黄金の輝きはそのままに
紙より薄く打ち延ばす
箔打ちの技

金箔として最も知られているのは金箔でしょう。金箔は金の小片を1万分の2〜3mmに打ち延ばしたもの。向うが透けて見えるほど薄く、手でこすれば消えてしまうような儚さです。この打ち延ばしをするのが箔打ち職人。高橋幸一氏は金箔と、金箔よりも打ち延ばしが難しいプラチナ箔も手がけています。「金箔打ちは、千分の1mmの金を打ち紙には



●高橋幸一（たかはしこういち）／1933年石川県金沢市生まれ。高校卒業後、家業である製箔業（箔打ち）に従事。79年通産大臣認定伝統工芸士。現在、金箔箔伝統工芸士会会長。

さみながら1600〜1700枚重ね、袋革で包み、それを直径約12cmの機械のハンマーで叩くんです。ハンマーの打ち下ろしは1分間に350回。摩擦熱で熱くなるので、冷ましながら重ねを替えて、またハンマーにかける」。かつて金槌で



手打ちしていた箔打ちは昭和に入って機械打ちに変わりましたが、どの部分をどれだけ打てば金箔がムラなく薄く延ばせるかはやはり職人の経験と勘にかかっています。現代のハイテク技術でもこれを越えるものではありません。「あのほっこりと落ち着いた金の色や艶は人の手をおかけないと出ない。金箔は漆を施した仏壇に押す（付ける）でしょ。いい金箔はね、漆の表面にすうーっと吸い込まれていくんだ」。門外漢にはどれも同じように見える金箔ですが、さすがに職人の目は厳しい。「ああ、いい仕事をしたという日は口笛のひとも出るんだが、そんな日は1ヶ月に十日あるかないかねえ」と高橋氏は苦笑い。箔打ち50年のベテラ

ンにして、その目はまだはるか高みを見つめています。

金箔の輝き、銀箔の微妙な色合いをさりげなく暮らしにとり入れる

金箔は彩りの材料として衣食住のあらゆるものに使われています。特に金箔は仏像仏壇をはじめとして和服や美術工芸品の加飾など、格の高さや豪華さを強調するに欠かせないもの。時代を経ても変わらぬ金の輝きは太古から人々を魅了し続けてきました。

この輝きを暮らしの中にも生かしたい。でも、総金箔押し調度品は場所や空間を選びますし、あまりに直接過ぎて



■ラピスブルー宝石箱

深い青色が美しい。箱の素材は桐で、銀箔をいぶして作った青目箔を押しつけてコーティング。この青目箔はカメラの名器・ライカの特別ボディにも使われました。蓋裏は金箔押し、中は2段に仕切られています。

(W140×D140×H100) ¥70,000 今井金箔

興ざめ。あくまでも品よく。そんな工芸

品を選ぶポイントとは、生地そのものの品質が高いこと。自然素材ならいいですね。

木やガラス、石、和紙、布物なら木綿や麻、絹など、本物の天然素材は温かみがあつて、金の輝きや質感をしつかり受け止めてくれます。金箔は部分的に散らしたり、刷毛目のようにあしらったりとアクセントに用いられたものが使いやすいのですが、総金箔を楽しむなら思い切り遊んでみるのも手。抽象的な図案やフォルムがユニークなオブジェはキッチンや

雰囲気演出してくれます。

また、最近は銀箔工芸品のアイテムも増えています。銀箔は変色が難点とされてきましたが、昔から屏風などとはかえって雅趣があると珍重されました。銀箔は

■朴葉茶器 萩・筆柿
朴葉の葉脈と風合いを活かし、漆に柿渋をまぜて仕上げてあります。内側部分に金箔をはくとしてあるのが特徴。参考商品 箔一



■金箔工芸 田じま

金箔や銀箔を使った工芸品からアルミ箔に関連する分野の商品を製造販売。店頭には日常使いの器や純金箔アクセサリ、贈答好商品などが揃っています。

金沢市武蔵町11-1 ☎076-263-0221 ⑨10時～17時40分 ⑩火曜

加工によってさまざまな色が出せまうし、光の加減による微妙な色のゆらめきが魅力。新しい金箔の製品として要チェックです。



■ガラス香立

ピンクやラベンダーなど微妙な色合いに銀箔がマッチ。玄関先でも床の間でも場所を問わず、オブジェとしても優秀。(長径約130mm) 1個¥4,500 箔一



■今井金箔

金箔や銀箔、プラチナ箔、アルミ箔などさまざまな金箔を製造販売。1F ショップには、金箔を最も多く使用している仏壇から、小さな工芸品までが展示販売されています。金沢市幸町7-3 ☎076-223-8989 ⑨9時30分～18時 ⑩無休



■アート箔の額

純金箔にツヤ消しと光沢の部分を作って絵柄や文字などを浮かび出させる新技術で製作されました。デザインは自由自在で¥10,000～製作できます。写真の額(額寸 550×550mm) ¥90,000 かなざわカタニ



■蒔絵酒器

見込みの絵柄は本金蒔絵。好きな絵柄でオーダーできます。プレゼントにはもちろん、家族それぞれが自分の持つのも素敵ですね。(径56mmより) 1個¥10,000～、デザイン、桐箱代は別途。製作期間は約2ヶ月。 金箔工芸田じま



磨き抜かれた漆工の名品

金沢漆器

金沢の漆芸は

文化政策に力を入れた加賀藩が

京都の蒔絵の大家、五十嵐道甫を招聘したことに始まります。

藩御用達の調度品として製作され、

洗練を重ねた金沢漆器は、

優美で雅な雰囲気を持つ高級漆器として愛されてきました。

本物をひとつひとつ
そろえていく喜び

金沢漆器の大

きな特徴は、東

山文化の流れを

くむ五十嵐道甫伝

来の華麗で優美な

加賀蒔絵です。蒔

絵の技法はさまざま

ですが、この優美さを出しているのは

肉合研出蒔絵。これは漆を塗り、金粉を

蒔き、さらに漆を塗って木炭で研ぎ出す



●清瀬一光（きよせいこう）／1942年、石川県金沢市生まれ。本名、進。蒔絵師初代清瀬一光の長男。高校卒業後、大坂にて就職するも、父の跡を継ぐべく、75年帰沢。以来、修業を重ね、86年2代一光を襲名。95年通産大臣認定伝統工芸士。

研出蒔絵と、金粉を盛り上げて立体感を出す高蒔絵の二つの技法を組み合わせたもの。高さを揃え、図案によっては遠近感を出すように細やかに研ぎ出す、そんな高度な技術をもった加賀蒔絵師たちが金沢漆器を支えています。

「うちのお客さんにはね、例えば硯箱をこしらえるでしょ、すると次は文台が欲しくなった、その次は…という具合に注文される方が多いんだ。最初はそんなつもりじゃなくても、一つ二つとあつらえていきたくなる、それが金沢漆器、加賀蒔絵の魅力かな」と語るのは加賀蒔絵師、清瀬一光氏。仕事の依頼の半分は業者ではなく、使い手であるお客さんという熱心なファンを持つ清瀬氏ですが、自分は作家ではない、あくまでも職人だと一徹です。「図案にしても新奇なものはない。親父のもの、その師匠のもの、そ

清瀬一光氏作品紹介

観瀑山水蒔絵棗

伝統的肉合研出蒔絵で表現された華麗な山水画。内はたつぷりと金粉を蒔いた光り輝く梨子地です。中棗2寸4分。
¥300,000 石田漆器店





■洗朱鶯宿梅三段重&尺塗板

落ち着いた朱色に可憐な平蒔絵が施された五寸五分の三段重は、普段使いからおもてなしまで目いっぱい活躍してくれそう。使い込むほど味わいも出てきます。艶やかな尺塗板は緑と黒の2種類。三段重1組 ¥150,000、尺塗板 ¥6,000 どちらも能作



■まり碗&弁柄朱デザート盆

精密な線と抑えた色合いの手鞠模様は可愛らしさの中に端正さ漂う逸品。大人の和膳に上品な華やぎを添えてくれます。黒縁の弁柄朱盆は八寸五分で多用途。まり碗1客 ¥32,000、弁柄朱デザート盆1枚 ¥40,000 どちらも能作



■黒入り子四段重
重ねたときのすっきりしたフォルムや朱のラインがきれい。上から一段、一段でも使えます。収納に便利な黒入り子ですが、おやつや和菓子や酒の肴などを詰めて、いつも家族とともにある、そんな使い方も楽しい。
(下の段220×220mm) 1組 ¥200,000 能作



■能作

創業安永9年(1780)、金沢漆器をはじめ輪島塗、山中塗などを揃えた金沢屈指の老舗。それぞれの産地の特性を活かしたプロデュース商品は現代の漆器として高い評価を得ています。金沢市広坂1-1-60 ☎076-263-8121 営 10時~19時 休 水曜
<http://www.kanazawa.gr.jp/nosaku>



■石田漆器店

明治2年(1869)の創業以来、金沢漆器の製造販売を行い、現在は輪島塗、山中塗器なども取扱っています。高級美術品から手頃な日常の器まで幅広い品揃えです。金沢市片町1-7-21 ☎076-261-2364 営 10時~20時 (日曜は~19時) 休 水曜
<http://www.3.nsknet.or.jp/ishida/>

れこそ道甫の時代から積み上げてきた伝来の図案がある。それが基本だよ」。加賀蒔絵の本流を守り、後続に伝えるのが自分の仕事という氏は、象牙や鼈甲、ガラスなど漆器以外の素材にも蒔絵を施すことを提案し商品化しました。これは加賀蒔絵の技術力を高め、可能性を広げること。そして金沢漆器のクオリティを高めることへとつながっているのです。

モダンなテーブルに映える 繊細で艶やかな漆器

加賀藩御用達の調度品だった金沢漆器ならではの特徴は、蒔絵以外にもう一つあります。それは、造りそのものが瀟洒で繊細なこと。重厚な蒔絵を施すので下地作りは丁寧で堅牢ですが、木地そのものは薄づくりでシャープ。大方の箱物の



■帯波紋箸洗碗&袴盆

上品な小吸い物碗と金沢漆器指物の薄づくりを活かした錫縁のお盆は、現代的でとてもシック。モダンな和のおもてなしに取り入れたいコーディネートです。帯波紋箸洗碗1客 ¥44,000、袴盆 (270×230mm) 1枚 ¥25,000 どちらも能作

角は丸くなっていますが、金沢漆器の指物(箱物の木地)は「隅角」といわれ、かすかに柔らかな感じが感じられる、キリツとした造り。豪華な加賀蒔絵に目を奪われ

れがちですが、木地のデイトールも金沢漆器の優美さの一因なのです。
このような造りの美しさは、手に取り使ってみて初めてわかるもの。蒔絵を施した美しく合理的な重箱もぜひ日々の食卓で活用させたい。となれば、15cm×15cmくらいの小さめのお重がおすす。一人分の料理やお菓子などを盛り込んで銘々皿として使えます。また、木地の薄さを生かしたしずい銀色の錫縁の袴盆は、端然とクールな印象。普段使いできる手頃な品です。盆の上にはやはり薄手で細めの漆碗などをのせて、繊細なコーディネートでまとめるときれい。碗にはお汁粉や葛湯などを入れて、おもてなしのデザートにいかがですか。



色糸が綾なす秀美な小宇宙 加賀繡

室町時代の初期、加賀への仏教の布教と同時に
仏前の打敷や僧侶の袈裟の加飾技法として
京都から伝わったのが加賀繡です。
明治以降はハンカチや帯、着物など呉服の優雅な彩りとなって
今日まで女性たちを魅了し続けています。

女性職人の指先から
生み出される
繊細で多彩な色模様

加賀繡は金糸や銀糸に多数の色糸を
使います。「通常の仕事で使う糸の色は
千色前後。でも、この色とこの色の間の
色が欲しいとなると、うちの工房で染め
るので無限大に増えています。もう多
すぎて数える気にもなりません」と笑うの
は加賀繡職人、森本悦子さん。さらに加
賀繡は立体感を表現する「肉入れ繡」や
上品な「ぼかし繡」が特徴。「ぼかしは、



●森本悦子（もりもとえつこ）／1955年、福井県生まれ。夫の転勤に伴ない来
沢。手芸・洋裁を嗜んだことから、小林刺繍舗に入門、現在に至る。作品展に
も意欲的に出品し、加賀繡を活かす袋物なども研究中。伝統工芸士取得を目指
し研鑽を積む日々。

色の境目は不自然にならないように、境
目の2色の色糸をより合わせて繡いま
す」とのこと。素人目にはなかなかわか
りませんが、このような細やかな配慮が
水彩画のような自然なぼかしを可能に
しています。基本の繡技法は、平面を立
体的に埋め尽くす繡いきりや玉止めをつな



げたような相良繡い、布目を飛ばしながら
線を入れる菅繡など15種類。それら
をさまざまに組み合わせる絵模様を描き
出していきます。「同じ色糸でも生地によ
って発色が変わるし、組み合わせる色
糸によっても印象が変わる。1本の線を
描くにも糸を何本使うか、どんな繡の方
にするかで雰囲気は全然違う。奥が深く
て、これでいいということがありません」。
加賀繡の職人はほとんどが森本さん
のようにその奥深さに魅せられた女性
たち。加賀繡の一針、一針には、より美
しく、もっときれいにという女性職人た
ちの繡いへの思いが込められています。

和装から小物まで 気品を添える加賀繡

加賀繡の真価が発揮されるのはなんと
いつても着物や帯の加飾です。総刺繡絵
羽模様の訪問着などは絵画のような美し
さ。一目一目の細やかさはため息もので
す。ほかしを多用し、落ち着いた色調の
加賀繡は華やかでありながら上品。年齢
を問わず、帯や小物のコーディネートで
長く着られます。帯は一般的に染めや刺
繡のものはカジユアルとされています
が、金銀入りや吉祥文様なら準礼装にも
OK。現代的な抽象模様ならコンサート
やレストランでの食事に、金糸銀糸鮮
やかな宝尽くしならお茶会にと使い分け
るのも楽しみ。季節の花々を圖案化した
花丸紋は加賀藩初代藩主前田利家の正室
おまつの方が得意だったといわれ、加賀

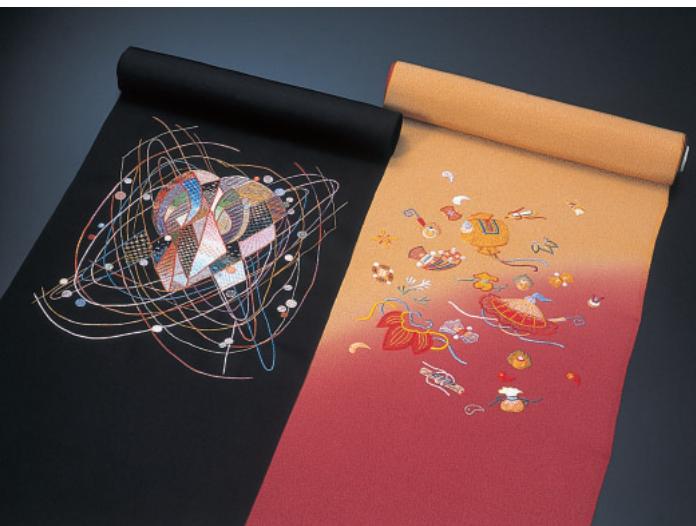


■訪問着「風船髪」

加賀友禅作家のデザインによる総刺繡の訪問着。約20色の糸系を使い、加賀繡独特のぼかし繡や肉入れ繡をふんだんに取り入れた繊細かつ豪華な逸品。¥550,000 小林刺繡舗

繡の伝統的図柄として伝えられていま
す。四季の花丸紋が入った袋帯は季節を
問わずに使え、礼装から社交事まで多用
途な1本です。また、付け下げなどに家
紋を刺繡する場合、加賀繡紋といえ
三色ほかしになるのをご存知ですか。目
立たない部分ですが、細部にこだわる和
装通におすすです。

加賀繡を施した小物は袱紗をはじめ、
バッグやショール、数寄屋袋などさまざ
ま。花丸紋ひとつだけでも優雅さと手仕
事の温かみが伝わり、格上の女性らしさ
を演出してくれます。近年では生地も縮
緬だけでなく、オーガンジーやスエード、
和紙へと広がってきました。繡にビー
ズやファーなどをあしらったデザイン的
な面白さにも注目です。



(左) ■名古屋帯「宇宙 (コスモス)」

春や初秋にすっきりと着たい塩瀬の名古屋帯。抽象的で鮮やかな図柄は気軽なお洒落着にあわせて、クラシックのコンサートやフレンチレストランでの食事になどにいかが。¥180,000 小林刺繡舗

(右) ■名古屋帯「宝づくし」

生地は縮緬。伝統的な吉祥紋様は場所を選ばず、金糸使いなので準フォーマルとしてOK。食会やお茶会に。¥160,000 小林刺繡舗



■ぬいの今井 (今井刺繡)

最高齢の加賀繡伝統工芸士、今井フクエさんとお弟子さんたちの工房。呉服から袱紗などの小物まで、気品ある品を作り続けています。
金沢市菊川12-10-12 ☎076-231-7271 ☎9時~17時 ㊟無休



■カメリアのイブニングドレス

藤ヶ浦悦子作。黒の縞子帯地に金糸で繡いとられた大輪の椿が華やか。脇に流れるのはオーガンジー。デザインも素材も和洋融合。参考価格¥200,000 縫工房 蘭鳥



■袋帯
加賀藩初代藩主前田利家の正室おまつの方から始まる加賀花丸紋をあしらった格のある袋帯。四季の花を取り入れてあるので季節を問わずに使えます。訪問着や留袖などフォーマルな装いに。¥400,000 小林刺繡舗

■蘭宮 (まゆばこ)
伝統工芸士藤ヶ浦悦子作。黒漆塗りに朱色の紐が鮮やかな印籠型バッグは、パーティで注目の的。加賀繡の帯をあしらって一段と華やかに。
(H100cm) ¥120,000 縫工房 蘭鳥





古き良きものを現代に 希少伝統工芸

金沢で製作されている伝統工芸の中には、加賀象嵌や二俣和紙、金沢和傘、加賀提灯、加賀毛針など、技術継承者が減少し、希少となったものが少なくありません。しかし、その手仕事を持つ温かみや美しさに変わりはなく、現代の暮らしを彩る新商品も登場しています。希少だからこそ貴重。価値ある逸品がここにあります。



●坂井貂聖（さかいてんせい）／1944年石川県金沢市生まれ。本名、章一。60年に上京し金工技術を取得。帰沢後、高橋介州氏、中川衛氏に師事、加賀象嵌を学ぶ。83年より現代美術展、金沢市工芸展などにおいて、今日まで連続受賞を果たしている。



シャープで端正な金属の 美しさが生きる加賀象嵌

象嵌の技法はさまざまですが、素地を彫るときに切り口の底部を外側に向けて広げ、異種の金属を打ち込み、磨き上げて素地と模様を平にする技法を平象嵌といい、加賀象嵌といえどこれを指します。切り口の底部を広げることで打ち込まれた金属は絶対に抜けることがなく、藩政時代には鎧の加飾として重用され、幕府や諸大名への贈り物としても第一級品でした。

作り手として坂井貂聖氏はその魅力が「組み合わせられた異種の金属の色や光沢が発する美しさ、金属を自由自在に使って模様を描く面白さ」と語ります。自在と言っても0コンマ何ミリという極細の

坂井貂聖氏作品紹介 接合象嵌飾箱「天空の瞳」& 接合駱駝紋象嵌飾箱



素地の金属は銅。黒く変色加工を施した表面は漆器のような光沢です。「天空の瞳」は平成10年度金沢市工芸展受賞作品。接合象嵌飾箱「天空の瞳」¥500,000、接合駱駝紋象嵌飾箱¥450,000

線を刻み、さらにその底部を広げるという極微の作業。道具も手づくりです。加賀象嵌は美術工芸品にとどまらず、ジュエリーにもその世界を広げてきました。坂井氏も金や銀、プラチナを使い、良質の天然石をあしらったブローチやチャーカーなどを製作。クールな輝きが見る者を魅了します。



■象嵌ルーベ・象嵌ワインオープナー・象嵌ブックマーカー・ピアマグ

中川衛作。スタイリッシュなデザインはプレゼントにも最適です。銀製のピアマグはロジウム加工で水洗いが可能。ルーベ¥16,000、ワインオープナー¥19,000、ブックマーカー¥16,500、ピアマグ¥20,000 金沢・クラフト広坂

紙漉きどころの気概 高品質を誇る二俣和紙

二俣は金沢の北に位置する自然豊かな山間の里。藩政時代から藩御用の料紙を漉いてきた土地です。「いい手漉き和紙は時間が経つと柔らかな風合いになり、



■紙布帯&紙布バッグ

二俣和紙職人、小松秀雄作。紙布は、縫った和紙を横糸に、麻糸を縦糸にした織物で、水に強く、軽いのが特徴。帯は季節を問わず、カジュアルに使えます。紙布帯¥50,000〜、紙布バッグ¥15,800〜（色各種あり）金沢・クラフト広坂

品が出る」と言う齊藤博氏は、原料である楮や雁皮、三桠を、紙の使用目的に応じてアク抜きをし、組み合わせ、漉き分けます。「毎年、画家や書家の先生に紙を試してもらって意見を聞くんだ」。そして独自の工夫を凝らし、使う人にとって最高の和紙を目指すのです。以前、ある寺院から仁王像の胎内に納める写経用の和紙を依頼されました。次のご開帳は300年後。それまで持つ紙でなくてはなりません。気の遠くなるような話です

和傘製作は竹の傘骨作り、骨組み、紙貼り、仕上げの四職で、30もの工程があり、それぞれが分業で行われてきました。金沢は雨や雪が多いので、和傘はとても

古都の情緒と自然風土に育まれた金沢和傘

が、「永久保存の紙をといわれれば千年は持つ紙を漉くよ」と齊藤氏はこともなげ。伝統の手漉き和紙職人は悠久の時の流れに身を置いているようです。



●松田弘(まつだひろし)／1924年石川県金沢市生まれ。傘職人の親方であった父について12歳から傘づくりを始め、現在、一貫生産を続ける国内唯一の和傘職人。店先ならびに全国各地で開催される石川県の物産展でその技を披露している。



●齊藤博(さいとうひろし)／1939年石川県金沢市生まれ。19歳から、二俣和紙作家・坂本宗一郎氏のもとで手漉き和紙技術を学ぶ。29歳で独立。加賀奉書紙のほか、和紙原料の素材を活かした多様な和紙を創作している。



■風鈴
人間国宝・三代魚住為楽作の砂張風鈴。気品ある音色と澄んだ余韻が心に残ります。
¥30,000 金沢・クラフト広坂



■和傘
松田弘氏製作の和傘は、左から、柿渋で染めた和紙が独特の風合いを持つ柿渋の傘¥30,000、蛇の目傘¥22,000、江戸傘の紋様を再現した葦に螢の傘¥25,000 松田和傘店

頑丈な造りです。骨組みも太く、厚手の五箇山和紙が多く使われています。金沢にもかつて相当数の傘職人がいましたが、現在は松田弘氏のみ。しかも骨組みから仕上げまで一人でこなす日本唯一の職人で、雨傘だけでなく、特大の野点傘から可憐な舞台傘まで、注文や修理が全国各地から舞い込みます。「お客さ



■金沢・クラフト広坂
金沢の希少伝統工芸品約20種類を取り揃えた専門ショップ。既製品販売だけでなく、オーダーもOK。製作者との仲介をしてくれます。
金沢市広坂1-2-24 ☎076-265-3320 営 10時～18時 休 水曜



■提灯
五十嵐英治作の加賀提灯。竹骨は螺旋状ではなく、一本一本輪にして糸で留めてあるので、とても丈夫。修理も容易です。受注生産で、文字入れにも応じてくれます。(両方ともH760mm)
(左) 天地模様¥28,000～、(右) 幕上¥38,000～ 金沢・クラフト広坂

んに好かれるいいものを作っていきたいねえ」という松田氏の傘は、粋な蛇の目傘、可愛い千代紙を張った千代傘、友禪作家が絵付けした友禪傘、自身で文字を入れた手描き傘など種類豊富。「床に置いたライトに立てかけてインテリアにするというガイジンさんもあるよ」と笑う松田氏。それって、いいアイデアかも。

掲載商品問合せ先

加賀友禪

(協) 加賀染振興協会	〒920-0932 金沢市小將町8-8 ☎076-224-5511 定休日／水曜日 営業時間／9:00～17:00 e-mail : info@kagayuzen.or.jp URL : http://www.kagayuzen.or.jp/main.html
加賀友禪伝統産業会館	〒920-0932 金沢市小將町8-8 ☎076-224-5522 定休日／水曜日 営業時間／9:00～17:00 e-mail : kaikan@kagayuzen.or.jp URL : http://www.kagayuzen.or.jp/kaikan/

金沢九谷

鍋木商舗	〒920-0855 金沢市武蔵町1-13 ☎076-221-6666 定休日／元旦のみ 営業時間／月～金9:00～22:00、 e-mail : kaburaki@basil.ocn.ne.jp URL : http://www.kaburaki.jp/ 土9:00～18:00、日祝10:00～18:00
長寿堂	〒920-0961 金沢市香林坊2-4-5 ☎076-221-1822 定休日／水曜日 営業時間／10:00～19:00 e-mail : honten@chojudo.com URL : http://www.chojudo.com/
野村右衛門堂	〒920-0936 金沢市兼六町2-3 ☎076-231-5234 定休日／冬季のみ木曜日 営業時間／9:00～18:00 e-mail : yuendo@map.co.jp
九谷焼 諸江屋	〒920-0981 金沢市片町1-3-22 ☎076-263-7331 定休日／水曜日 営業時間／9:00～20:00
北山堂	〒920-0962 金沢市広坂1-2-33 ☎076-231-5288 定休日／水曜日 営業時間／9:30～19:00 e-mail : office@hokusando.co.jp URL : http://www.hokusando.co.jp

金沢仏壇

金沢仏壇商工業協同組合	〒920-0855 金沢市武蔵町8-2 ☎076-223-4914 定休日／土・日曜日 営業時間／9:00～17:00
有限会社 山田仏具店	〒920-0854 金沢市安江町12-32 ☎076-221-2306 定休日／火曜日 営業時間／9:00～19:00 e-mail : yamatai@po3.nsknet.or.jp URL : http://www.shop-kanazawa.jp/
株式会社 米永仏壇	〒920-0058 金沢市示野中町1-10 ☎076-221-1930 定休日／木曜日 営業時間／9:00～18:00

金沢箔

今井金箔	〒920-0968 金沢市幸町7-3 ☎076-223-8989 定休日／年末年始 営業時間／9:30～18:00 e-mail : info@kinpaku.co.jp URL : http://www.kinpaku.co.jp
かなざわカタニ	〒920-0902 金沢市尾張町2-16-80 ☎076-263-6111 定休日／無休 営業時間／9:00～17:00 e-mail : office@katani.co.jp URL : http://www.katani.co.jp/
株式会社 金銀箔工芸さくだ	〒920-0831 金沢市東山1-3-27 ☎076-251-6777 定休日／無休 営業時間／9:00～18:00 e-mail : goldleaf@violin.ocn.ne.jp URL : http://www.success21.com/goldleaf/
箔座 本店	〒920-0843 金沢市森山1-30-4 ☎076-251-8941 定休日／無休 営業時間／9:00～18:00 e-mail : info@hakuza.co.jp URL : http://www.hakuza.co.jp/
金箔工芸 田じま	〒920-0855 金沢市武蔵町11-1 ☎076-263-0221 定休日／火曜日、年末年始、夏季 営業時間／10:00～17:30 e-mail : kougei@tajima-kinpaku.co.jp
株式会社 箔一 本店 箔巧館	〒921-8061 金沢市森戸2-1-1 ☎076-240-0891 定休日／元旦のみ 営業時間／9:00～18:00 e-mail : info@hakuichi.co.jp URL : http://www.hakuichi.co.jp/

金沢漆器

石田漆器店	〒920-0981 金沢市片町1-7-21 ☎076-261-2364 定休日／水曜日 営業時間／10:00～20:00 e-mail : ishida@e-katamachi.com URL : http://www3.nsknet.or.jp/ishida/
株式会社能作	〒920-0962 金沢市広坂1-1-60 ☎076-263-8121 定休日／水曜日 営業時間／10:00～19:00 e-mail : nosaku@kanazawa.gr.jp URL : http://www.kanazawa.gr.jp/nosaku

加賀繻

ぬいの今井	〒920-0967 金沢市菊川2-10-12 ☎076-231-7271 定休日／不定休 営業時間／9:00～17:00
小林刺繻舗	〒921-8015 金沢市東力町1-130 ☎076-291-5150 定休日／日・祝 営業時間／9:00～17:00 土～16:00
縫工房 繻島	〒920-0367 金沢市北塚町西66-1 ☎076-249-4989 定休日／不定休 営業時間／9:00～17:00

希少伝統工芸

金沢・クラフト広坂	〒920-0962 金沢市広坂1-2-24 ☎076-265-3320 定休日／水曜日 営業時間／10:00～18:00 e-mail : hirosaka@blue.hokuriku.ne.jp URL : http://www.hokuriku.ne.jp/hirosaka
-----------	--

その他のお問い合わせ

金沢工芸普及推進協会	〒920-0962 金沢市広坂1-2-24 ☎076-265-3320 定休日／水曜日 営業時間／10:00～18:00 e-mail : hirosaka@blue.hokuriku.ne.jp
------------	---

Kanazawa Traditional Arts & Crafts

ス・テ・キ

2002Vol.1 平成14年11月30日発行

編集・発行 金沢工芸普及推進協会

編集協力 石川県加賀刺繻協同組合・石川県箔商工業協同組合・金沢九谷振興協同組合・金沢漆器商工業協同組合
金沢仏壇商工業協同組合・協同組合加賀染振興協会

取材・撮影協力 金沢美術工芸大学・三井ホーム・クウードフランス